

人と活動のつながりづくりを応援する 

にしとも広場

心惹かれて
～はじまりはココから～

2018
12号



はじまりは ココから

どうして今の活動が始まったの？ なぜこの場所で活動しているの？ そう思って、にしとも広場スタッフが西区の気になる場所・人に会いに行きました。心を動かされて、またちょっとしたきっかけからそれは始まっていました。5つの“今につながる物語”に迫ります。



働き続ける女性の
ライフキャリアパスとは？！

NPO 法人ディアナ横浜

〒220-0072
横浜市西区浅間町3-174-15
Tel : 045-515-7677 (営業時間のみ)
e-mail : diana.yokohama@gmail.com
営業時間：火・木 10時～16時
土・日 10時～17時



本当に私が果たす
役割って何だろう

株式会社ブルーコンパス

〒220-0023
横浜市西区平沼 1-40-1
嶋森ビル 8階
Tel : 045-532-4192
e-mail : info@bluecompass.co.jp



赤ちゃんのことは
ここに聞いて！

NPO 法人 Umiのいえ

〒220-0073
横浜市西区岡野1丁目 5-3
4F サンワビル
Tel : 045-324-8737
e-mail : umi@umi.lar.jp



大好きな横浜を
発信してます。

絵本
「のげやまくんとくま」を出版。

株式会社星羊社

〒231-0045
横浜市中区伊勢佐木町 1-3-1 イセビル 402
Tel : 045-315-6416
Fax : 045-345-4696
e-mail : info@seiyosha.net
HP : https://www.seiyosha.net/



地元じゃなくても
地域密着！

着ぐるみ懐メロ音楽ユニット 日ノ出サンデーズ

e-mail : hinodesundays@gmail.com
facebook : https://www.facebook.com/hinodesundays/



働き続ける女性の ライフキャリアパスとは?!

NPO 法人ディアナ横濱



ディアナ横濱の
みなさん

「ディアナ横濱」は、浅間下の交差点から洪福寺
へ向かう途中にあります。佐藤さん(写真右から
2人目)、大塚さん(一番右)にお話を伺いました。

これからのライフキャリアパス

「高齢者施設に行ってメイクのボランティアをした
時、女性が綺麗になると、本人も楽しいし、まわり
も元気になることを実感しました」と佐藤さん。
“女性の美”をテーマに、何かはじめよう、何か形
にしようと動き出しました。

今メンバーとして活躍している 5人は、それぞれ
にキャリアを重ねながらも、これから先の生き方を
考え、模索していました。高校の同級生だった大
塚さんや地域で活動していた先輩たちとそんな思
いやこれからを話したところ、意気投合しました。
「男性が退職したあと、地域に居場所がない、とい
うのはよく聞かかもしれませんが、地域に根付い
ていないのは、働き続けていたら女性も同じですよ
ね」と佐藤さんは言います。仕事を辞めたあと暮
らし続ける「地域」でできることを考えていきたい
と考えています。

メンバーは 2012 年頃から、公共施設などを中
心に利用し、ネイルやメイク、お花の講座など、活
動を行っていました。しかし、会場予約や時間の制
約から、自分たちで使える場が欲しくなりました。「ヨ
コハマ市民まち普請事業*」という助成金を知り、2
回のコンテストをみんなで乗り越え見事助成金を得
て、2014 年秋、現在の場所にオープンしました。



居心地の良い空間が広がる。サロンを始めると、
「自分が得意なことを伝えたい!」という想い・声
が届くように。

2018 年 7 月から始まった認知症カフェも、その
ようにつながりから始まりました。

自然とつながる場へ

地域のイベントに参加し、関係が深まるなかで、
地域の役員に声を掛けていただきました。今では、
祭りの御神輿が店前にきてくれたりと、少しずつ地
域に認められ、つながりが出来てきたように感じて
います。

たくさんの出会いがありますが、嬉しかったエピソード
があります。設置している小箱ショップがき
っかけとなり、近隣の就労移行支援事業所とつなが
ったところ、通っている方にディアナ横濱のホームペ
ージを作成してもらうことになりました。すると、ディ
アナのホームページをきっかけに、また次の依頼に
つながったのです。現在、その方はたくさんの依頼
を受けて活躍しています。「つながる」とは自然に
つながっていくことと実感しました。誰かにとって
ここがステップの場になり、次へつながっていくよ
うな場所になったら嬉しいと思っています。



小箱ショップは、作家さんそれぞれの質が本当に高く、
新作が入るとまとめて購入する方も多いという

本当に私が果たす 役割って何だろう

株式会社ブルーコンパス



女性の起業家コミュニティづくりや
専門家チームによる起業支援なども
行っている。



代表の蜂谷詠子さん

横浜駅東口から歩いて4分のところに「女性のためのワーキングスペース & コミュニティ【ブルーコンパス】」があります。代表の蜂谷さんにお話を伺いました。

私にしかできないことを見つけて

SE(システムエンジニア)として12年間働き、仕事をしながら育児をする日々を送っていました。育児はみんなやっていることだし、両立はできる、と思っていましたが、保育園に子どもを預けて職場に向うとどうしても子どもの声が頭から離れません。将来子どもに仕事について聞かれた時、「“お母さんにしかできない仕事”だから働いていたんだよ」と胸を張って言えるだろうか？悩みに悩み、それでは、「自分のスキルと体験を生かした自分にしかできない仕事をしよう」と考えるようになりました。

退職後、まずは、セミナーや起業塾で学びながら、起業家の集客やスキルアップのためのHP作成を事業に据えました。この時期に、スタートアップを対象にした支援制度を様々利用した経験が、今起業をしたい人たちへのアドバイスにつながっています。

行政の支援は、スタートアップの0の段階を1にするもので、様々な制度があり、本当に手厚くなっています。しかし、事業がスタートしてから継続・拡大するための支援が足りていません。多くの起業した女性と関わりを持つに連れ、「コミュニティが欲



化粧直しができるようにとドレッシングを設置しています。美容に関するイベントやカラーコーディネートイベントの際に使用している方も多いという。



しい」という声を受け、横浜で活動する女性起業家団体「ラプラスよこはま」を設立しました。コミュニティでは、さらに活動を行うための拠点が欲しいという声が出て、そこで作ったのが、「ブルーコンパス」です。まさにここでは、1から5へ、5から10へと成長できる場にしたいと強く考えています。

起業という海で舵をきる!!

家族のために、ムリのない働きやすい環境を目指したいと会社から独立・起業したものの、負のスパイラルにはまってしまう女性起業家は多いです。起業すると、まず組織がなくなり、情報を得る機会がなくなり、そして組織に所属していた時にはあった、成長の機会を失ってしまうのです。

「女性起業家は、まさに海に投げ込まれた状態にあります。指標がないために、どちらに進んだら正解なのか、そもそも動き回っても前進しているのか、さえも分かりません。」と蜂谷さん。次はどのような事業に取り組むべきか？ブルーコンパスはそんな人たちの拠りどころになれるよう、蜂谷さん自身も考えながら、利用者と一緒になってニーズをキャッチしながら舵を切り、進んでいます。

いのち・こころ・からだ・ くらしの学びあいの場 NPO 法人 Umi のいえ



思わずくつろいでしまう
量の温かい空間が広がる。



代表の齋藤麻紀子さん

平沼高校のすぐ近くで、産前産後の母親支援を中心に活動している「Umiのいえ」の齋藤さん、上村さんにお話を伺いました。

赤ちゃんのことなら ここに聞いて!

代表の齋藤さんは、自身のお産の経験を通じて、安全安心と母性が育まれる出産環境について考え、1994年から出産に関する市民活動をしていました。同時に育児サークルを立ち上げ、母親同士が励まし合う場もつくってきました。

2006年、全国的に産科医師不足と産科の閉鎖がニュースで話題になりました。そこで、「難産で病院が満杯にならないよう、健康的にお産ができる人が増えますように!」と思い、学校では習わなかった暮らしの知恵やいのちや心について学べる場を開く決意をしました。場所は、平沼高校の隣のビルの4階。子育て支援者（助産師、育児支援者、セラピストなど）や、親を対象にした講座やワークショップ、手作りやアートを通じた交流の場づくりを行っています。3階にある整骨院と連携して、子育て中のお母さんの身体の癒し場も担っています。



「Umiのいえつうしん」を
定期発行している。



こだわりの物販のなかには、被災地応援につながるものも。

あなた自身が 大切にされるお産を ここだからこそ話せることがある

時代が移り変わる中で 子育てを取り巻く環境が変わってきたと齋藤さんは感じています。育児の情報を得るのは今やインターネット検索。子育てもSNS利用で成り立っている。それでも普遍的なのは、人が人を育てるときに一番の力になるのは、生身の人のぬくもり。子育ての先輩や同期に出会って、見て聴いて感じる時間が、今の自分を受け入れていく励みになります。

Umiのいえには、東京・千葉・埼玉・相模原・横須賀などの遠方からも訪れます。「近所や地域のつながりのない、住んでいる場所が全く違うからこそ本音で話せる」と齋藤さんは語ります。不妊治療、離婚、ステップファミリー、ひとり親家庭、里親・養子縁組、しょうがい、DVや虐待の経験、病気、夫婦・親族間の問題など、それぞれが抱える「ハードル」や「生きにくさ」も、言葉を交わしあえることが大切。誰にでも困難を乗り越えていく力があるということを前提に、まずは、肩の力を抜いて、ほっとできる場でありたいと思っています。

地域密着！ 着ぐるみ 懐メロ音楽 ユニット 日ノ出サンデーズ



野毛の秋祭りでのライブ風景 ライブならではの一体感は格別

ネコ、ウサギ、サルの着ぐるみを着た3人組が、ボーカル&ギター、バイオリン、ドラムという珍しい構成で昭和の名曲や横浜のご当地ソングを演奏。西区の野毛山荘でその一体感あふれるライブを観て強く心惹かれ、市内在住のメンバー 2人にお話を伺いました。

日ノ出サンデーズ誕生！

それまで別々に音楽活動をしていた面々が、同じ職場や共通の友人を介して出会い、2013年の冬、ひよんな流れで、日ノ出町駅前での路上ライブを決行。道行く人たちの温かさに感動し、以降も月1~2回のペースで継続。当初は日曜限定だったことから「日ノ出サンデーズ」と名乗るようになり、翌春からは、より親しみやすい存在になれるよう、着ぐるみ姿で懐メロを歌い奏でて行くことに。

感謝の気持ちを込めて 地域を盛り上げたい！

ライブを重ねるごとに、日ノ出町という町自体が好きになり、この地域を一層活気づけるような役割を担いたい、そう思うようになりました。無許可でのライブを続けてしまっていた手前、認めてもらえるか心配だったものの、快く受け入れていただき、2015年からは、運動会や例大祭も含む地域の様々なイベントに参加させてもらっています。



ボーカル&ギター担当“黒猫ルック”こと伊吹留香さん(左)と、バイオリン担当“うさぎのエリー”こと塩野えりさん(右)



名刺を作ろうとしていた頃、地域の方が紹介してくださったのが、長者町を拠点に活動していた美術家・竹本真紀さん。同じデザインの旗やTシャツも作っていただきました。



自分たちも楽しい！ だから続けていられる

「ソロの活動時は、自らの胸の内を吐き出したい気持ちが強かった。このバンドでの活動時は、とにかく目の前の人たちに楽しんでもらいたい気持ちが強い。」とシンガーソングライターとしてデビュー経験もある留香さんは話します。バイオリニストのえりさん、ドラマーの“おさるのキヨピー”こと清川ワタルさんも、プロの世界の厳しさを知る身。皆、楽しんでもくれる人たちがいることが何より嬉しく、力を合わせ、一つ一つの依頼に真摯に取り組んでいるうち、多方面から声が掛かるようになりました。西区・中区から市外、県外へも活動範囲が広がっていますが、日ノ出町というホームが、いつも初心に返らせてくれます。

建物から生まれた 出版社

株式会社星羊社



編集長の成田さん(左)と
代表取締役の星山さん(右)。

絵本「のげやまくんとくま」

『のげやまくんとくま』という絵本をご存知ですか？頭に「の」の字をのせた「のげやまくん」は、西区出身の男性が「大好きな野毛を盛り上げたい」という気持ちから、まちの掲示板にイラストを貼ったのが始まりだそうです。そんな「のげやまくん」の絵本を発行している星羊社は、夫婦2人で経営しています。出版社を立ち上げたきっかけなど、お話を伺いました。



延び横浜の人の暮らしと共にあったこのビルから、地元横浜を発信する出版社を創りたい」そんな気持ち生まれ、ふくらんでいきました。

「どんな時代でも紙ベースの本を愛する人はいるはず。」「好きな酒場を通して横浜の歴史を伝えたい。」まるで必然だったかのようにイセビルから星羊社が生まれ、『はま太郎』が出版されました。



地元の酒場を丁寧に取材した『はま太郎』は、
お酒を愛する女性たちにも人気

気負わず、好きな物をかたちに

「ここから横浜を伝えたい」 イセビルから動き出した出版への思い

「星羊社」は、伊勢佐木町にある築92年のイセビルの4階にあります。

大学院で知り合った二人は、それぞれの職場を探していました。二人で借りれば広いところが借りられる。駅や図書館に近く、できれば大好きなお酒が飲める野毛にも近く、そんな条件に当てはまる場所として、あまり深く考えずにイセビルを選びました。実際に入居してみると、古き良き時代の趣を感じさせる外観、大きな飾り窓。「空襲を生き

『はま太郎』などの出版物は、自分たちが好きな酒場を丁寧に取材し記事にしてきました。『のげやまくんとくま』は初めての絵本でしたが、作者と一緒に思いを形にする経験となりました。そして設立して5周年となる今年、初めてライターさんに依頼し、本を出版しました。「自分たちのこだわりを大事にしながら、気負わずに好きな物を形にしていきたい」と星山さん、成田さんのお二人は考えています。



にしとも広場の使い方



西区グループ・団体ガイドブックが完成しました。 (2018年7月発行)



2018年(平成30年)5月31日現在、グループ・団体登録をされている方を掲載しています。更新された方及び、6月1日以降に登録された方の情報はにしとも広場のホームページでご確認いただけます。登録グループ・団体の方で、ガイドブックを希望される方はにしとも広場でお渡ししておりますので、お立ち寄りください。



団体登録のご案内

登録にあたり、非営利性、公益性、属地域性を基に活動内容についてヒアリングいたします。

登録するとできること

- 1 にしとも広場の印刷機やミーティングスペースなどの予約ができます。
- 2 にしとも広場主催の講座や交流会などの情報を、にしとも広場の情報紙と共にお知らせします。
- 3 団体情報を、グループ・団体ガイドとして冊子及びホームページにて掲載します。

登録の仕方や詳しい内容については、にしともスタッフまでお気軽にどうぞ!

編集後記

今回のテーマは、「はじまりはココから」。5つの“今につながる物語”はいかがでしたか。自分の経験や切実な想い、ふと心にとまった出会いから、今の活動があることがわかってきました。

今の自分の心のなかにあるアイディアについて、少し勇気を出して周りの人に話してみたら、ゆくゆくは形になるかも?!取材を終えて、そんな気持ちになりました。この記事が、一歩踏み出すきっかけになることを願って…。

にしとも広場13号は、
3月発行予定です。
お楽しみに!



にしとも広場は、
土・日曜日、祝日も
開館しています
(水曜日休館)

“にしとも広場”ってどんなところ?

にしく市民活動支援センター“にしとも広場”は、人と活動のつながりづくりを応援する場です。

「何か始めたい」「活動の場を広げたい」「活動に役立つ情報を知りたい」といったご相談をお待ちしています。ぜひ一度お立ち寄りください。



にしく市民活動支援センター
にしとも広場

管理運営：認定NPO法人市民セクターよこはま
TEL/FAX：045-620-6624

- Eメール ni-shiencenter@star.ocn.ne.jp
- ホームページ <http://www.nishitomo.city.yokohama.lg.jp/>
- 住所 横浜市西区中央1-5-10 西区役所1階
- 開館時間 9:00~17:00
休館日：毎週水曜日・年末年始(12/29~1/3)
- アクセス 京浜急行「戸部駅」徒歩8分
相模鉄道「平沼橋駅」徒歩10分

